

振れ止め専用ワイヤーグリップ アルティマ ターンバックル



株式会社 **アルティマ**  
<https://www.ultima-grip.co.jp>

ゆるまない。空間に溶け込む。美しいデザイン。





# 目次

- 何故、設計者がアルティマ ターンバックルを選ぶのか？ ..... P. 6 ~
- 製品仕様 ..... P. 8 ~
- 取付手順 ..... P. 12 ~
- よくある質問 ..... P. 15



- 簡単に美しくワイヤーグリップが張れます。
- ターンバックル部分と接続ワイヤーグリップが一体化したことで、スリムで空間にすっきりとした印象を与えます。
- ワンタッチロック機能採用でワイヤーグリップの着脱がピンの操作で行え、設置作業が大幅に軽減されます。
- ターンバックルの高い強度を活かし、パーゴラへも活用出来ます。
- 強度ある水平張りで植物の荷重に耐える適度なテンションを保持します。

※他社製品と比較して、内部機構が露出しないスリムボディ。壁面緑化やパーゴラへの応用として、拡大しています。

高いグリップ力により、ロングスパン (10m以上)の設置が可能になりました。

ワイヤー線径	Φ3.0 SUSワイヤー
許容荷重値	65kg 以内～100kg 以内 ※許容荷重値は、最大静荷重値の約1/3の安全率でみています。
主な用途例	公共施設等のサインの振れ止め パーゴラへの応用 (集合住宅ファザード、商業ビルファザード等)
主な納入先	駅構内、公共施設、商業施設、パーゴラ その他多数

# 施工事例



駅構内振れ止め



豊洲ファザード



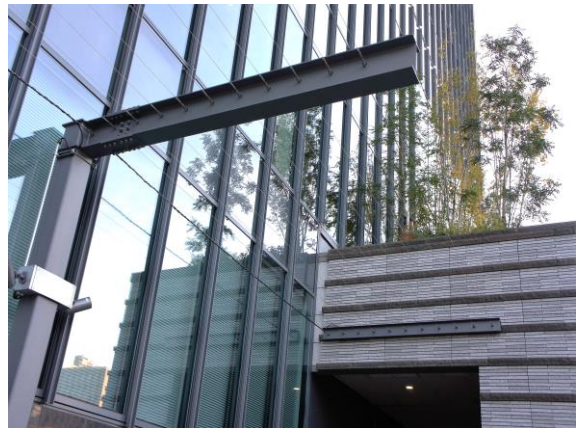
夢の島熱帯植物園



駐車場



照明振れ止め



オフィスファザード



## 何故、設計者がアルティマ ターンバックルを選ぶのか？

2002年頃、某鉄道会社の新駅舎の設計時に設計さんから、こんな事を言われました。

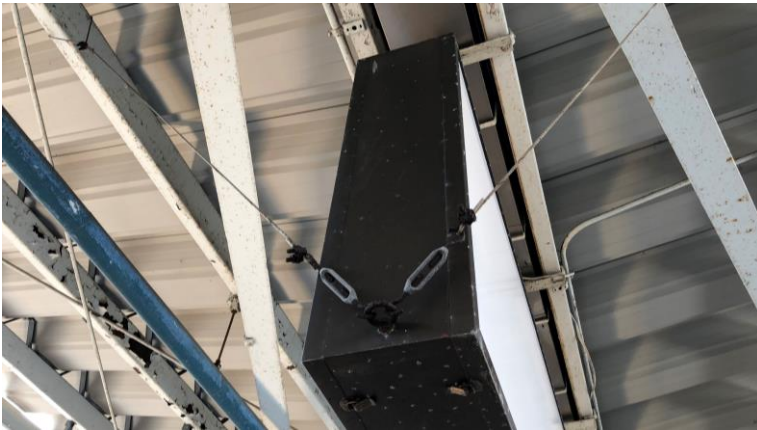
“ホームや壁面を景観的に綺麗に収めたのに、検査時に頭上での多くのサイン等の振れ止めがあまりにも汚いので、まいったよ。。。 アルティマでもっと洗練されたターンバックル作れないの???”

確かに従来のターンバックル(上図)は何の工夫もありません。

ワイヤーグリップを引っ張るには、固定されたアイボルトなどにターンバックルのフックを掛けて、胴体を回し逆ネジのフックにループにしたワイヤーをワイヤーグリップで複数個で止め、テンションをかける。

そこで、景観、意匠も美しく、かつ設置が容易でターンバックル本来の仕様性も保持したものを作れないか。

それを実現したのが、**アルティマ ターンバックル**です。



従来ターンバックル



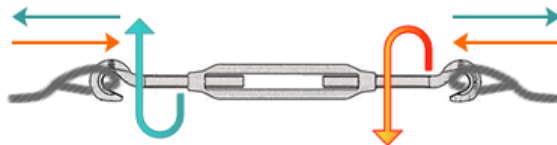
アルティマ ターンバックル

## □ 従来ターンバックルの取付手順

1



2

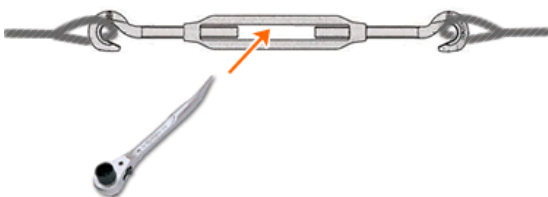


① 支柱先端のワイヤー引っ掛け部にワイヤー本体のフック直線部を画像の様に押し当てます

② 両側は左右に反対のネジが切っており、真ん中の部分を回す事で、両端のフック部分が伸び縮みする。

3

※ 画像出展： <https://ihc.monotaro.com/topic/080328/>



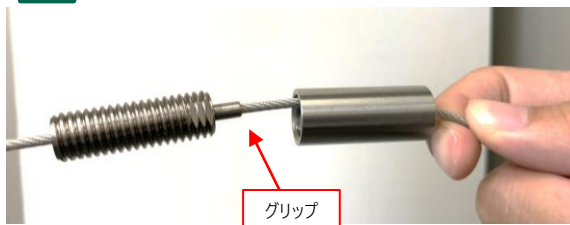
③ 手で回せなくなったら、真ん中にこのような道具を差し込んで回して、ワイヤーによりテンションをかける

従来ターンバックルは、

- ワイヤーグリップを引っ張るのが大変・・・
- 足場などの狭い場所でターンバックルを回す作業が大変・・・
- 意匠的に工夫がなく、あまり見栄えが良くない・・・

## □ アルティマ ターンバックルの取付手順

1



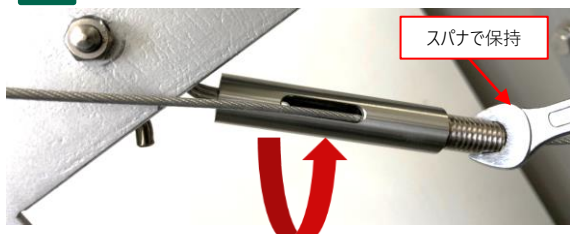
① グリップにワイヤーグリップを挿入する

2



② グリップから出たワイヤーグリップを本体の長孔に差し込み、グリップを本体にねじ込む

3



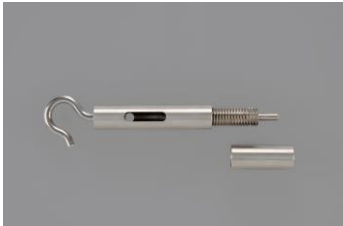


③ 長孔から出たワイヤーを手で引っ張り、グリップ先端をスパナで保持し、本体を回してテンションをかける

アルティマ ターンバックルは、

- ターンバックル部分と接続ワイヤーグリップが一体化したスリムボディ
- ワンタッチロック機能採用でワイヤーの着脱がピンの操作で行え、設置作業が大幅に軽減
- 高いグリップ力により、ロングスパン(10m程度)の設置が可能



## 製品仕様

	UTB-30BN	UTB-30CN	UTB-30DN
			
端部形状	フック	アイ	ストレート
パイプ穴の形状	長穴		
使用線径	ステンレスワイヤー：φ3		
材質	ステンレス		
安全荷重	SUS：640N (65kg以内)	SUS：980N (100kg以内)	
備考	ワイヤー長の調整可能		

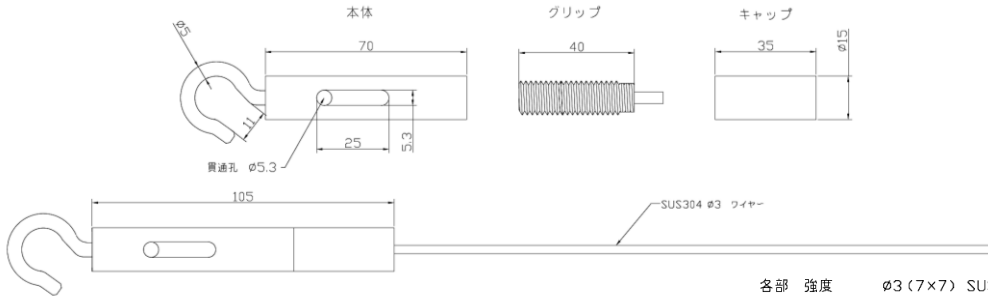
※取り扱いのご注意／

安全荷重はターンバックル側の強度です。施工の際は吊り金具、サポート材などの強度も考慮して下さい。改良のため、予告なく形状・仕様を変更することがあります

	EB (端末金具)	M10ボルト受け金具
		
使用線径	Φ3	
使用方法	片端子ワイヤーを使用し、3方向、連続、30～40度までの斜め張りに使用できます。 ※端末金具背面を使用して斜め張りをする場合、30～40度以内でご使用ください。	ターンバックル仕様ロングスパン施工時のφ3SUSワイヤーの上端固定に使用します。
材質	ステンレス	

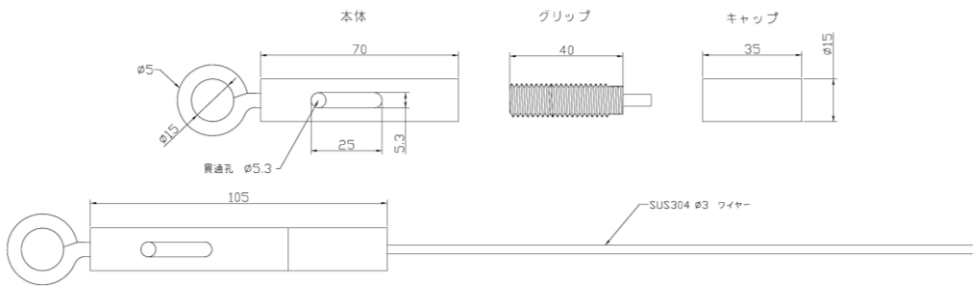


### UTB-30BN (端部形状；フック)



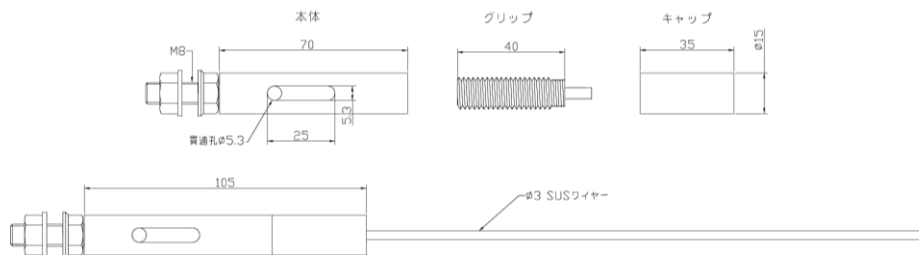
各部	強度	φ3 (7×7) SUSワイヤー
本体フック		300kg以上
ワイヤーフック		300kg以上
ワイヤーグリップ		500kg (実用200~300kg)
カシメ部		400kg以上
ワイヤー破断強度		660kg

### UTB-30CN (端部形状；アイ)



各部	強度	φ3 (7×7) SUSワイヤー
本体丸端部		300kg以上
ワイヤーフック		300kg以上
ワイヤーグリップ		500kg (実用200~300kg)
カシメ部		400kg以上
ワイヤー破断強度		660kg

### UTB-30DN (端部形状；ストレート)



各部	強度	φ3 (7×7) SUSワイヤー
ワイヤーフック		300kg
ワイヤーグリップ		500kg 実用300~400kg
端部カシメ		300kg以上 (社内規格)
ワイヤー破断強度		660kg



フック	ループ
-----	-----



使用線径	Φ3	
使用方法	相手側支持材がアイ状金具の場合：フック（SUS）	梁、柱などの部材にループを通す仕様：ループ径 φ45
材 質	SUS 304 (7×7)	
ワイヤー長	受注生産	

※ターンバックル側は全て溶断処理になります。ターンバックルの相手側の形状をお選び下さい。

※当社用意の専用ワイヤー以外は使用しないで下さい。

※ワイヤーグリップの標準寸法は L = 2000・3000mmです。その他の寸法はご相談下さい。

溶断	端子
----	----



使用線径	Φ3	
使用方法		相手側もターンバックルの場合は両端共に溶断
材 質	SUS 304 (7×7)	
ワイヤー長	受注生産	

ワイヤーグリップ形状：端子 + M10ボルト、端子 + M8ボルト



ワイヤーグリップ形状：フック





## 取付手順 (UTB-30BN)

1. 本体からキャップとワイヤーグリップを外す



2. キャップを先に通しグリップにワイヤーを挿入する(10~15センチ程出す)



3. グリップから出たワイヤーを本体の長孔から出し



4. 本体を回してグリップを2~3山捻じ込む



5. 長孔から出たワイヤーを手で引張る ※(スパイラルワイヤーの場合は外側螺旋状ワイヤーを必要な所まで外す)



6. 手で引張った後、グリップ先端をスパナで保持し本体を回して張る(本体の孔を使いドライバー等で)  
(10mmスパナ使用)



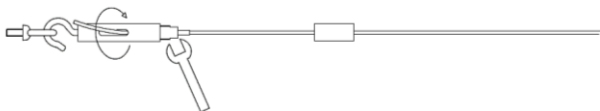
7. 適度に張った後キャップを締めて完了(余剰部をカットする場合は50~100mm残して下さい) ※緩んだ場合に引張りなおしをする為  
カットする場合



- 物を吊るなどの用途には適しません。
- 安全荷重はあくまでもターンバックル側の強度です。施工の際は、吊り金具・サポート材などの強度も考慮してください。
- レベルの調整は荷重がかからない状態で行ってください。
- 振動がある場所でのご使用はお避けください。
- 本体およびワイヤーなどに塗料や油等は塗らないでください。
- ワイヤーの切り口がほどけているとグリップ部に入り難くなります。
- **アルティマ ターンバックル** 専用以外のワイヤーは使用しないでください。
- ワイヤーの標準寸法は L = 2000mm・L = 3000mmです。その他の寸法はご相談ください。
- ワイヤーは相手に合わせ、端部形状をお選びください。EB (ターンバックル側のワイヤー端部形は、すべて溶断処理となります。
- 相手側は、溶断・端子・ループ・フックよりお選びください。) 例えば、相手側もターンバックルの場合は、両端共に溶断、
- 相手が端末金具の場合は端子、相手が柱や梁などの場合はループとなります。

## 張り直し (UTB-30BN、30CN共通)

1. キャップを外しグリップをスパナで保持して本体を回して緩める



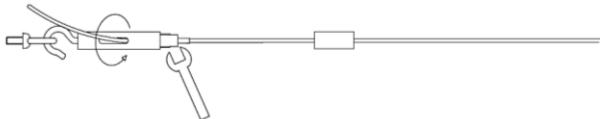
2. グリップのネジ部が25~30ミリ出るまで緩める



3. 余剰ワイヤーを工具で強く引張ってワイヤーの緩みを取る（強く引張るとロックが解除します）



4. グリップをスパナで保持し、緩めた時と反対方向に回してワイヤーを張る



5. キャップを戻す





## 取付手順 (UTB-30DN)



- テンションをかける際には引っ張り過ぎないように注意して下さい物を吊るなどの用途には適しません。

# よくある質問

## Q1. ワイヤー径は何種類ありますか？

仕様線径はφ3に限定されます。

指定線径以外は、安全上ご使用にならないで下さい。

## Q2. ターンバックルの許容荷重を教えてください

端部形状フックのUTB-30BNはSUSワイヤーで65kg以内です。

端部形状アイのUTB-30CN、端部形状ストレートのUTB-30DNはSUSワイヤーで100kg以内です。

許容荷重値は最大静荷重値の約1/3の安全率で設定しております。

## Q3. ターンバックル専用ワイヤーの加工はどのようなものがありますか？

ターンバックル側は溶断加工になります。もう片方は、フック金具付、端子金具付、ループ加工、溶断加工の4種類よりご選択ください。

## Q4. ワイヤー長さの特注寸法は出来ますか？

定尺寸法のご用意は、L=2000、L=3000になります。

これより長いロングスパンの場合は特注にて製作いたします。納期、金額はお問合せ下さい。



株式会社 **アルティマ**

〒130-0002 東京都墨田区業平3-4-8 豊ビル 2F

Tel: 03-5608-6838 / Fax: 03-5608-6837

<https://www.ultima-grip.co.jp>